

文化財となった。

「赤水ウオーク」は5日午前10時半に東京・日比谷公園内「かもめの広場」をスタート、内閣官房「領土・主権展示館」の赤水資料を閲覧し、皇居東御苑内休憩所と大芝生で昼食後、旧水戸藩上屋敷に作られた小石川後楽園庭園を巡る。

国指定重要文化財の日本地図「赤水図」を江戸時代に作成した長久保赤水の顕彰会は、ゆかりの地を巡る10月5日の「全国赤水ウオーク東京大会2024」の参加者を募集している。

赤水は現在の茨城県高萩市に生まれた地理学者で、伊能忠敬より40年以上も前に日本初の経緯線を入れた赤水図を作成。水戸藩主の侍講（教師）も務め、2020年に赤水図などの資料が国指定重要

受け付け開始は同日午前9時半、参加費（傷害保険代等）300円。弁当とビクニックシートは持参を。定員は120人、締め切りは9月27日。申し込みは長久保赤水顕彰会のホームページ（<http://n.agakubosekai.org/>）の「お問い合わせ」欄に氏名、メールアドレス、電話番号を入れ、問い合わせ内容欄に「赤水ウオーク東京大会参加」と住所を記載のこと。

赤水ウオーク 参加者を募集

10月5日開催